

地域経営政策専攻  
マネジメント（MBA）コース

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経営組織論特研 I (Organization Theory Advanced Research I)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
コア科目	2	1. 2	後期	月 3	本谷 るり (Ruri MOTOYA) E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線
授業の概要	経営学全般と経営組織論の知識を深め、理論を応用し、実社会に活用できる能力を身につけることを目指しています。企業組織に対するさまざまな側面からの理論や分析視点を獲得することに加えて、受講生各自の視点や考えを出し合い、共有し、議論を深めることによりそれらを達成します。				
具体的な到達目標					
目標1	経営組織論のさまざまな理論の習得				
目標2	理論を活用し企業を分析する視点の習得				
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス (講義の進め方、準備するものなどの説明をします)				
2	経営学、経営組織論の枠組み				
3	経営組織論の流れ(1)				
4	経営組織論の流れ(2)				
5	組織の構造(1)				
6	組織の構造(2)				
7	組織文化、経営理念				
8	組織と人(1)モチベーション				
9	組織と人(2)リーダーシップ				
10	組織と人(3)インセンティブシステム				
11	組織学習、組織の知識				
12	組織変革(1)組織成長のモデル				
13	組織変革(2)イノベーション				
14	事例研究(1)				
15	事例研究(2)				
アクティブ ラーニング	積極的に討論に参加するようにしてください。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容と 時間の 目安	準備学修	あらかじめ該当する文献を読んでから参加してください。担当の方はレジュメや配付資料の準備をしてください。毎回30分～1時間程度。			
	事後学修	講義中の解説で分からないことがあれば、質問したり文献で確認したりしてください。参考文献を紹介しますので、興味があるものについてはぜひ読んでみてください。毎回1時間程度。			
教科書	用いる文献についてはガイダンスの際に提示します。使用する文献によっては、講義の内容が前後することがあります。				
参考書	講義中に適宜お知らせします。				
成 績 評 価 の 方 法 及 び 評 価 割 合	評価方法				割合
	期末レポート				100%
注意事項	毎回の授業でのプレゼン担当者を決め、レジュメを作成し内容についてプレゼンテーションをしてもらう形で進めます。担当者は授業の前半では内容を説明し、ポイントとなることをまとめてください。疑問点や内容に関するコメント等も明らかにしてください。後半はそれらをもとにして受講生全員で討論を行います。				
備考	※令和2年度までに「経営組織論特研」を受講済みの方は、受講できません。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
マーケティング論特研 I (Marketing Theory Advanced Research I)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
コア科目	2	1. 2	前期	火 6	松隈 久昭 (Hisaaki MATSUGUMA) E-mail himatsu@oita-u.ac.jp 内線 7680
授業の概要	マーケティング理論の理解と応用分析が中心となる。また、マーケティングリサーチ、ケース分析により、理解を深める。				
具体的な到達目標					
目標1	マーケティングの基礎的理論を説明できるようになること。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	マーケティング理論の理解 (1)				
2	マーケティング理論の理解 (2)				
3	製品政策 (1)				
4	製品政策 (2)				
5	価格設定 (1)				
6	価格設定 (2)				
7	流通政策 (1)				
8	流通政策 (2)				
9	プロモーション (1)				
10	プロモーション (2)				
11	消費者行動 (1)				
12	消費者行動 (2)				
13	マーケティングリサーチ				
14	事例研究				
15	事例研究とまとめ				
アクティブ ラーニング	受講生はレポートを作成し、教員はそのサポートを行う。				その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	テキストの内容について、事前学習を行うこと。			
	事後学修	学んだ理論に合うような現代的事例を経済誌や新聞で調べること。また、それらの事例に関する現状と課題を示すこと。			
教科書	初回の講義時に指示します。受講する方は、必ずテキストを入手してください。				
参考書	Malhotra, N. K., Marketing Research, Prentice Hall, 2003				
成績評価 及び評価 割合 の方法	評価方法			割合	100%
	レポート				新型コロナ対策のために、遠隔授業にする場合があります。その場合は、初回の授業時にお知らせします。
注意事項	統計学を履修済みであることが望ましい。 ※令和2年度までに「マーケティング論特研」を受講済みの方は、受講できません。				
備考	初回のガイダンスに参加してください。新型コロナ対策のため、ZOOMでの授業（オンデマンドを含む）になる場合があります。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験を いかした教育内容					

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経営情報論特研 (Management of Corporate Information and Communication Systems Advanced Research)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
コア科目	2	1. 2	後期	火7	松岡 輝美 (Terumi MATSUOKA) E-mail matsuoaka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668
授業の概要	モジュール化・ソフトウェア化・ネットワーク化というデジタル化の3つの要因が産業構造をしていかにレイヤー構造化するのか、代替理論に基づく破壊的イノベーションによる既存企業の対応戦略、既存事業を維持しながらデジタル化を進めていく方法、新たなバリエーションプロポジションの作り方について具体的な事例を考察しながら理解していく。				
具体的な到達目標					
目標1	専門用語の理解				
目標2	基本的な原理の理解				
目標3	事例の企業のビジネスモデルの基本形を説明できるようになること。				
目標4	分析対象企業がバリエーションプロポジションをいかに実現しているのか理解し説明できるようになること。				
目標5	デジタルトランスフォーメーション (ICTを活用した事業変革) の方法パターンを理解し、説明ができるようになること				
目標6					
授業の内容					
1	オリエンテーション				
2	産業構造へのインパクト・デジタル化の3要因				
3	既存企業VS新規参入者				
4	プラットフォームとバリューチェーンの複合化				
5	デジタルディスラプション				
6	プロセスの代替。代替の危機の4分類				
7	4つの対応戦略				
8	カニバリゼーションの克服				
9	生存可能領域				
10	バリューイノベーション 顧客価値の見直し				
11	ブルーオーシャン戦略と価値曲線				
12	バリューインパクト				
13	サブスクリプションモデル				
14	プラットフォーム型モデルの本質				
15	総括				
アクティブラーニング	講義で取り上げる事例を分析して発表してもらい、ディスカッションします。	その他の 授業の工夫	事例に関連する動画を数回視聴します。		
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	経済ニュースに日々目を通して、テキストと参考資料を事前に読んできておいてください。			
	事後学習	講義が終了後必ず復習し、また疑問点について自分でもよく調べてください。			
教科書	根来龍之 (2019) 「集中講義デジタル戦略」日経BP				
参考書	ユルゲン・メフェルト、野中賢治 (2018) 「デジタルの未来」日経新聞出版社				
成績評価の方法	評価方法			割合	
	講義中の報告			30%	
	講義中のディスカッションへの参加			20%	
	最終課題レポート			50%	
注意事項	テキストに沿って進めていきます。講義形式で60分はビジネスモデルの種類と特徴そして、モデルに該当する企業の説明をしていきます。30分はディスカッションに当てます。ビジネスモデルの基本類型について理解し、分析力を高めてください。				
備考	新聞や雑誌で話題の事例を講義の中でその都度紹介します。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教員の实務経験	バイオ製薬企業におけるデジタルトランスフォーメーションのコンサルテーション				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○				
教員以外の指導に関わる実務経験者	フレゼニウスメディカルケアジャパン株式会社 ジャパンクオリティヘッド 山口 浩				
実務経験をいかした教育内容	製薬企業におけるヘルスケア分野のデジタルトランスフォーメーションの動向を解説 (オンライン)				



# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経営管理論特研 I (Business Administration Advanced Research I)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	前期	金 6	藤原 直樹 (Naoki FUJIWARA) E-mail <a href="mailto:nfujwara@oita-u.ac.jp">nfujwara@oita-u.ac.jp</a> 内線 7675
授業の概要	経営管理論として、人的資源管理の問題を講じてゆきます。そして、この中心的課題として、昇進(キャリア)管理、ならびに、企業内における技能向上手段をとりあげます。対象は、一見、我が国とは対照的な雇用慣行を基礎に経営が行われているアメリカと旧西ドイツです。具体的には、両国では、そもそも内部労働市場が広範に存在しているのか、その深さはどの程度までが一般的であるのか、昇進と関連した企業独自の継続訓練はいかなる形で実施されているのか等が課題です。これらにより、我が国の人的資源管理の特徴が、より明確なものにもなるでしょう。				
具体的な到達目標					
目標1	内部労働市場とは何かを、経済学の観点より十分に理解すること。				
目標2	アメリカのブルーカラーを対象として、企業内移動と技能向上手段を考察し、理解すること。				
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	問題の所在、内部労働市場とは、キャリアとは何か				
2	問題の所在、内部労働市場とは、キャリアとは何か				
3	問題の所在、内部労働市場とは、キャリアとは何か				
4	労働協約から見た内部労働市場				
5	労働協約から見た内部労働市場				
6	装置産業における企業内移動(1)				
7	装置産業における企業内移動(1)				
8	装置産業における企業内移動(2)				
9	装置産業における企業内移動(2)				
10	装置産業における企業内移動(2)～英語の研究論文読解				
11	装置産業における企業内移動(2)～英語の研究論文読解				
12	装置産業における企業内移動(2)～英語の研究論文読解				
13	機械産業における企業内移動				
14	機械産業における企業内移動				
15	アメリカにおける内部労働市場の史的展開				
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫
	この講義で英語の研究論文を取り上げるのは、これらを読解するための要点を理解し、習熟するという目的のためでもあります。				
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	テキストの予習(30h)			
	事後学修	授業内容の整理(30h)			
教科書	小池和男『職場の労働組合と参加』東洋経済新報社、1977年(但し、現在品切中)。これ以外に、短い英語の研究論文を使用します。また、総括の意味として、私の論文を取り上げるケースもあります。				
参考書					
成績評価 及び評価 割合 の方法	評価方法			割合	
	報告・発表の内容			50%	
	授業中の議論の内容			50%	
注意事項					
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験を いかした教育内容					

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経営戦略論特研 I (Management Strategies Advanced Research I)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	前期	木 4	仲本 大輔 (Daisuke NAKAMOTO) E-mail daichan@oita-u.ac.jp      内線 7714
授業の概要	現代企業の経営に関わる諸問題を考察していくうえで、企業が進むべき基本的方向を定める経営戦略を知り、分析していくことは必要不可欠です。本講義では、文献輪読を通じて経営戦略の概念、経営戦略の見方などを習得することをねらいとします。				
具体的な到達目標					
目標1	習得した経営戦略論の分析枠組みにより、現実には起きている企業経営に関わる問題を考察できるようになることです。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	経営戦略の概念				
3	ポーターの論文①				
4	ポーターの論文②				
5	ハメル&プラハラードの論文				
6	バーニーの論文				
7	ミンツバーグの論文				
8	ブルーオーシャン戦略①				
9	ブルーオーシャン戦略②				
10	前半のまとめ				
11	アーキテクチャ論①				
12	アーキテクチャ論②				
13	アーキテクチャ論③				
14	アーキテクチャ論④				
15	結び				
アクティブラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	DIAMONDハーバード・ビジネス・レビュー等から該当する論文をコピーします。また、適宜、学術雑誌等から論文をコピーします。その際には、受講者の希望を考慮します。				
参考書	適宜紹介します。				
成績評価の方法 及び評価割合	評価方法				割合
	平常点 期末レポート				80% 20%
注意事項	報告者以外の受講者も毎週、教材を読んでください。				
備考					
リンク					
	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経営戦略論特研Ⅱ (Management Strategies Advanced Research Ⅱ)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	後期	木 6	仲本 大輔 (Daisuke NAKAMOTO) E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714
授業の概要	本講義は、経営戦略論特研Ⅰで習得した、経営戦略に関する様々な視座をふまえ、より専門的なテーマを取り上げて文献を輪読していくこととします。本年度は、サービス産業におけるイノベーションのあり方、およびその戦略を共に考えていくこととします。				
具体的な到達目標					
目標1	専門書や論文を読むことにより、企業の経営戦略はいかに変容していくのかを考えることができるようになる。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	テキスト・論文の輪読				
3	テキスト・論文の輪読				
4	テキスト・論文の輪読				
5	テキスト・論文の輪読				
6	テキスト・論文の輪読				
7	テキスト・論文の輪読				
8	テキスト・論文の輪読				
9	テキスト・論文の輪読				
10	テキスト・論文の輪読				
11	テキスト・論文の輪読				
12	テキスト・論文の輪読				
13	テキスト・論文の輪読				
14	テキスト・論文の輪読				
15	テキスト・論文の輪読				
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	近藤隆雄 (2012) 『サービス・イノベーションの理論と方法』生産性出版、を予定しています。他に、関連する論文を数編取り上げる予定です。				
参考書					
成績評価 及び評価 割合 の方法	評価方法			割合	
	平常点			80%	
	期末レポート			20%	
注意事項	経営戦略論特研Ⅰを履修済みか、経営戦略論に関する基礎的な知識をすでに習得していることがのぞましいです。				
備考	受講者との相談の結果、取り上げるテキストを変更することもあります。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験を いかした教育内容					

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
企業論特研 I (Company and Business Advanced Research I)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	後期	火 6	河野 憲嗣 (Kenji KOUNO) E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679
授業の概要	学術研究の対象として語られる企業に着目して、様々な視点から理解を深めます。				
具体的な到達目標					
目標1	企業に関する学術的な考察や研究方法への理解を通じて、修士論文のテーマへの洞察を深化させます。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス (受講者の研究計画などのヒアリング、授業の進め方の説明等)				
2	企業に関する理論 (講義、討論)				
3	現代社会における企業の意義と課題 (講義、討論)				
4	受講者による研究報告、討論				
5	受講者による研究報告、討論				
6	受講者による研究報告、討論				
7	企業の実例 (講義、討論、現地調査)				
8	企業の実例 (講義、討論、現地調査)				
9	企業の実例 (講義、討論、現地調査)				
10	ケーススタディ (講義、報告、討論)				
11	ケーススタディ (講義、報告、討論)				
12	ケーススタディ (講義、報告、討論)				
13	受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理				
14	受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理				
15	受講者による研究報告と討論、今後の課題の整理				
アクティブラーニング	論文や報告資料など成果物をアウトプットすることにこだわります。他学生や様々な環境の中で学ぶ機会を設けます。			その他の	授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてスライドやプリントを使用します。				
参考書	三戸・池内・勝部著『企業論』有斐閣アルマ 1999年 ミクススウェイト・ワールドリッジ著『株式会社』ランダムハウス講談社 2006年 その他、テーマに応じて適宜紹介します。				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法			割合	
	レポート			50%	
	平常点			50%	
注意事項	ゲストスピーカーを招いたり、企業等へ現地調査に赴くことがあります。				
備考	受講希望者は初回講義日前日までに必ず担当教員までメールで連絡してください。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教員の实務経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容	ビジネスの実体と金融の側面から、学術研究の対象としての企業について解説する。				

令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
ベンチャー・技術経営論特研 (Venturing & Technology Management Advanced Research)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	前期	金 5	渡邊 博子 (Hiroko WATANABE) E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702
授業の概要	本授業では、日米のベンチャー企業や技術経営を対象に、取り巻く経済・産業・社会とその構造変化を把握し、ベンチャー企業や技術経営の歴史や現状、成長過程とその課題、ベンチャー企業を創出・育成したり、技術経営を深化させたりするための手段や方法、ベンチャー企業や技術経営からみた今後の社会経済システムなどについて考察していきます。また、企業の成長や経営の取り組みにかかわるイノベーションについても、その歴史や本質の理解を深めていきます。さらに、多くの事例研究を行うことでベンチャー企業や技術経営の実態および課題を明確にしていきます。				
具体的な到達目標					
目標1	ベンチャー企業や技術経営を取り巻く経済・産業・社会の構造やその変化を認識する。				
目標2	企業や技術経営、イノベーションに関する知識を修得する。				
目標3	ベンチャー企業や技術経営を創出・発展させていくための手法について具体的に考える。				
目標4	場合によっては、自ら起業するための準備ができるような力を養う。				
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス (ベンチャー企業や技術経営を取り巻く経済・産業・社会)				
2	イノベーションの概念と重要性				
3	ベンチャー企業や技術経営の定義と歴史、アントレプレナーシップ、起業家像				
4	日本およびアメリカにおけるベンチャー企業および技術経営				
5	ベンチャー企業および技術経営のビジネス的側面 (1) 創出期				
6	ベンチャー企業および技術経営のビジネス的側面 (2) 発展期				
7	ベンチャー企業および技術経営の現状と課題				
8	ベンチャー企業および技術経営の促進方法 (1) 創出・育成				
9	ベンチャー企業および技術経営の促進方法 (2) 支援				
10	ベンチャー企業や技術経営における人材				
11	ベンチャー企業や技術経営の新たな側面				
12	日本のベンチャー企業・事例研究 (1)				
13	日本のベンチャー企業・事例研究 (2)				
14	アメリカのベンチャー企業・事例研究				
15	講義のまとめとベンチャー企業の今後の姿				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーション、レポート、事例研究など。	その他の授業の工夫	各テーマに関連した映像や新聞、雑誌、記事などの利用。		
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	本テーマに関する文献はもちろんのこと、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などについても日頃から目を通しておいてください。			
	事後学修	授業時ごとに説明します。			
教科書	受講生との相談のうえ決定しますが、関連資料等は毎回配布します。				
参考書	後藤晃『イノベーション-活性化のための方策-』東洋経済新報社、2016年。鈴木克也編集『ソーシャルベンチャーの理論と実践-理論と実践シリーズ』エコハ出版、2011年。金井一頼・角田隆太郎編『ベンチャー企業経営論』有斐閣、2002年。一橋大学イノベーション研究センター編『イノベーション・マネジメント入門』日本経済新聞社、2001年。他 関連する白書類などを含め授業の中で適宜紹介します。				
成績評価の方法	評価方法			割合	
	授業における報告および議論の内容や取り組み姿勢			50%	
	期末レポートの内容			50%	
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。				
備考	具体的な内容や進め方などについては、受講生の人数や要望に応じて柔軟に決めていきたいと思っています。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教員の实務経験	シンクタンク 研究員等				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
比較経営史特研 (Business History Advanced Research)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	後期	金 6	渡邊 博子 (Hiroko WATANABE) E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702
授業の概要	本授業では、第二次世界大戦後の日本経営史を対象として、経済や産業の発展過程を踏まえたうえで、欧米諸国からの技術や経営システムの移転、日本の国際競争力向上に貢献したモノづくりやイノベーションの過程、日本企業独自の経営システム(日本的経営)の確立、グローバル化の進展による産業や企業へのインパクトやその取り組み、アジア諸国の勃興やキャッチアップによる日本企業への影響などについて、事例研究を中心に産業分析、企業比較を行っていきます。また、これまでの歴史をもとに、これからの日本企業のあり方や生き残り・発展戦略などについても検討していきます。				
具体的な到達目標					
目標1	戦後日本の経済や産業発展を理解したうえで、日本の経営システムや組織運営に関する知識を修得する。				
目標2	産業分析や企業比較、事例研究などを行い、当該分野の具体的な内容を理解する。				
目標3	歴史や変遷をもとに、これからの企業のあり方や生き残り・発展戦略について考察する力を養う。				
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	ガイダンス				
2	欧米諸国の経済・産業発展と企業経営 (1)				
3	欧米諸国の経済・産業発展と企業経営 (2)				
4	戦後日本の経済・産業発展と企業経営 (1)				
5	戦後日本の経済・産業発展と企業経営 (2)				
6	日本のモノづくりと企業におけるイノベーション				
7	日本的経営の確立とその発展				
8	グローバル化の進展と日本の産業や企業				
9	アジア諸国の台頭と日本企業				
10	産業分野における歴史と企業の変遷：鉄鋼等産業				
11	産業分野における歴史と企業の変遷：自動車産業				
12	産業分野における歴史と企業の変遷：電機産業				
13	産業分野における歴史と企業の変遷：サービス産業 (1)				
14	産業分野における歴史と企業の変遷：サービス産業 (2)				
15	講義のまとめとこれからの日本企業の生き残り・発展戦略				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、個人ワーク、プレゼンテーション、レポート、事例研究など。			その他の 授業の工夫	各テーマに関連した映像や新聞・雑誌記事などの利用。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	本テーマに関する文献はもちろんのこと、関連する最新の新聞・雑誌記事、インターネット情報などについても日頃から目を通しておいてください。			
	事後学修	授業時ごとに説明します。			
教科書	受講生との相談のうえ決定しますが、関連資料等は毎回配布します。				
参考書	授業の中で適宜紹介します。				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法			割合	
	授業における報告および議論の内容や取り組み姿勢			50%	
	期末レポートの内容			50%	
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。				
備考	具体的な内容や進め方などについては、受講生の人数や要望に応じて柔軟に決めていきたいと思っています。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無	○				
教員の実務経験	シンクタンク研究員等				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
リスク・マネジメント論特研 (Risk Management Advanced Research)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2		前期	集中	内田 知男 (Tomoo Uchida) E-mail tomoo.uchida@eliipower.co.jp 内線
授業の概要	企業にとってリスクとは、企業目的の実現に影響を与える全ての事象が対象となります。企業リスクマネジメントを学ぶことは企業経営の実践そのものを学ぶことに他なりません。本講義ではケース演習を通じて企業のリスクマネジメント体制構築の考え方や運営について学びます。その中で約300のリスク/経営課題を検討します。また、企業事件ケーススタディにより企業不祥事問題の原因を分析し、コーポレートガバナンスや企業の社会的責任について考えます。実務家によるワークショップを通じて企業経営のあり方を理解して頂ければと思います。				
具体的な到達目標					
目標1	リスクマネジメントを通じて、組織を動かすための経営手法と具体的なリスク/経営課題を学ぶ				
目標2	企業経営・コーポレートガバナンス・リスクマネジメントとステークホルダーエンゲージメントとの関係を理解する				
目標3	米国エンタープライズリスクマネジメントと企業統治について学ぶ				
目標4	企業事件ケーススタディを通じて内部統制に基づく企業分析手法を習得し企業の社会的責任への理解を深める				
目標5	事業継続管理BCM、コンプライアンス、リスクファイナンス等リスクマネジメントに関連する諸手法を学ぶ				
目標6					
授業の内容					
1	序論：リスクマネジメント・内部統制を要請する社会の動向把握、本講義の基本事項解説				
2	ケース演習 (1)：米国エンロン事件分析とエンタープライズリスクマネジメントへの展開 (1)				
3	ケース演習 (2)：米国エンロン事件分析とエンタープライズリスクマネジメントへの展開 (2)				
4	ケース演習準備 (リスクマネジメントプロセス)：リスク概念、リスクマネジメント国際規格等による実践プロセス解説				
5	ケース演習 (3)：エンタープライズリスクマネジメント体制 (1)。マネジメントプロセスモデル演習				
6	ケース演習 (4) エンタープライズリスクマネジメント体制構築 (2)。マネジメントプロセスモデル演習 (続)、300のリスク/経営課題分析				
7	ケース演習 (5) エンタープライズリスクマネジメント体制構築 (3)。300のリスク/経営課題分析 (続)。リスク記述演習				
8	ケース演習準備 (企業事件・企業統治)：会社法、内部統制、コーポレートガバナンス、コンプライアンス等解説				
9	ケース演習 (6)：企業事件事例ケーススタディ分析・検討				
10	ケース演習 (7)：企業事件事例ケーススタディ分析・検討				
11	ケース演習 (8)：企業事件事例ケーススタディ分析・検討				
12	ケース演習 (9)：企業事件事例ケーススタディ分析・検討				
13	リスクファイナンス：リスク対応策としての保険等のリスクファイナンス並びにリスク計量化と企業価値について				
14	事業継続管理 (BCM) (1) 事業中断リスクの対応する事業継続管理 (リスク影響度分析法、国際マネジメント規格等)				
15	事業継続管理 (BCM) (2) 事業継続管理、危機管理シミュレーション				
アクティブラーニング	ケース演習を通じてリスクマネジメント体制構築法や企業事件の分析法を学んでいきます。その中で、様々なステークホルダーとの連携の下でいかに活動するか、企業経営のあり方への理解を深めていきます。			その他の授業の工夫	ワークショップ議論を通じて学びます。学部生も歓迎します。
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	専門知識は必要ありません。企業経営や企業事件について関心をもって新聞・報道に接しておくことが望まれます。			
	事後学修	企業経営問題を自分の頭で考えられるようになってほしいと思います。			
教科書	パワーポイント資料、ケーススタディブックを配布				
参考書	中央経済社「リスクマネジメントの実務」(講師著書)				
成績評価の方法	評価方法			割合	
	ワークショップ参加			50%	
	試験 (持込可。講義内容から出題)			50%	
注意事項					
備考					
リンク					
	URL	<a href="http://eliipower.co.jp/">http://eliipower.co.jp/</a>			
担当教員の実務経験の有無 <input type="radio"/>					
教員の实務経験 三井住友銀行経営企画部部長、銀泉リスクソリューション社長、現エリーパワー株式会社常勤監査役					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容 経営実務経験や多くの企業でのコンサルティングを踏まえた実践的な内容となります。					

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
ビジネスモデル論特研 (Analysis of Business model Advanced Research)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1. 2	前期	木 2	松岡 輝美 (Terumi MATSUOKA) E-mail matsuoaka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668
授業の概要	ビジネスモデルの概念や基本的な考え方をもとに特徴的なモデルのパターンを理解し、顧客価値の作り方や届け方の特徴やポイントを把握した上で、既存事業を革新する方法や、新たなビジネスモデルを創造する方法について学んでいくことが目的です。				
具体的な到達目標					
目標1	基本的なビジネスモデルのパターンを理解する				
目標2	分析対象企業のビジネスモデルの構成要素を具体化できるようになる				
目標3	ビジネスモデルキャンパスをかけるようになる				
目標4	ビジネスモデルマッピングができるようになる				
目標5	競合との差別化のための戦略を考え出す				
目標6	地域の特質を織り込んだ独自性のあるモデルの創造				
授業の内容					
1	オリエンテーション				
2	ビジネスモデルとは何か ビジネスモデルとは何か ビジネスモデルと戦略論の関係				
3	戦略モデルキャンパス 両利きの経営とは ビジネスモデル分析				
4	規模の経済 範囲の経済 密度の経済 速度の経済				
5	ネットワークの外部化 デファクトスタンダード デジタル化 モジュール化 レイヤー化				
6	クラウド化 オープンソースブルー・オーシャン戦略 BOPモデル				
7	戦略モデル事例分析1 ビジネスエコシステム シェアリング クラウドファウンディング				
8	戦略モデル事例分析2 稼働保証モデル サービタイゼーション				
9	戦略モデル事例分析3 パーソナライゼーション 消耗品モデル ロングテール				
10	オペレーションモデル事例分析1 SPA BTO ダイレクトセル				
11	オペレーションモデル事例分析2 オープンビジネス プロシューマー				
12	オペレーションモデル事例分析3 顧客データ 顧客ライフサイクル 顧客ロックイン				
13	収益モデル事例分析1 従量課金 投げ銭 部分所有				
14	収益モデル事例分析2 フリー フリーミアム サブスクリプション				
15	収益モデル事例分析3 カスタマーロイヤルティ				
アクティブラーニング	事例を理解しやすいようにストーリーミング映像や図表を使用します。論理的に分析していくことを実践して基礎を固めましょう。				その他の 授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	事前にテキストや資料を読んできてください。事例分析の企業についてのホームページや関連するニュースや記事を読めるだけたくさん読んで要点をノートしておいてください。			
	事後学修	講義内容を復習して課題の完成度を高める			
教科書	根来龍之 富樫佳織 足代訓史 (2020)「ビジネスモデル」SB creatibe 近藤哲郎 (2018)「ビジネスモデル2.0図鑑」KADOKAWA				
参考書	チャールズ・A. オライリー, マイケル・L. タッシュマン他 (2019)「両利きの経営学」東洋経済新報社				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法			割合	
	講義中のディスカッション			20%	
	講義中の事例分析発表			30%	
	最終課題レポート			50%	
注意事項	事例を分析しながら内容の理解を深めていきます。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の实務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
モチベーション論特研 (Motivation Theory Advanced Research)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
選択	2	1.2	前期	月6	井川 純一 (Junichi IGAWA) E-mail jigawa91@oita-u.ac.jp 内線 7734
授業の概要	従業員のモチベーションを高めることは、企業組織にとって重要な課題の一つである。本講義では、動機づけの原理について心理学的視点から理解させることを狙いとする。受講生には、動機づけに関する書籍（日本語翻訳版）を読み解き、輪読方式で発表させる。担当章に関連する分野の最新の文献を紹介し、最新のモチベーション研究の方法論について学ぶ。				
具体的な到達目標					
目標1	仕事への動機づけを個人レベルで評価できる。				
目標2	仕事への動機づけを集団・組織レベルで分析できる。				
目標3	仕事への動機づけとライフスタイルに応用できる。				
目標4	産業・組織心理学研究の具体的方法を説明できる。				
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	イントロダクション (担当章の確認)				
2	第1章 生物学、行動、金銭				
3	第2章 初期の実証主義の時代				
4	第3章 理論の出現				
5	第4章 従業員は深く考える				
6	第5章 20世紀の議論の数々				
7	第6章 欲求				
8	第7章 パーソナリティ特性				
9	第8章 価値				
10	第9章 認知				
11	第10章 社会的認知理論				
12	第11章 情緒 / 感情				
13	第12章 無境界心理学				
14	第13章 実践の技法				
15	まとめ				
アクティブラーニング	演習形式で行う。受講生がそれぞれ章を分担し発表し、テーマにそった議論を行う。			その他の授業の工夫	講義の内容や参考文献を予めホームページに公開し、質問やミニレポートの総評をWeb上で回答することにより、学習を促進する。
時間外学習の内容と時間の目安	準備学習	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する (15h)。発表資料の準備をする (3h)			
	事後学習	講義内で行った議論の内容を復習し (10h)、実生活における応用の可能性について検討する (20h)。次回のディスカッション時にそれまでの学習結果を応用する (4h)。			
教科書	ゲイリー・レイサム (著) 金井壽宏 (監訳) 『ワークモチベーション』 NTT出版				
参考書	『動機づける力ーモチベーションの理論と実践』 ダイアモンド社				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法			割合	
	発表資料			50%	
	プレゼンの内容			30%	
	議論への参加			20%	
注意事項	輪読のテーマとする書籍は履修者との話し合いで変更する可能性があります。初回の授業までは購入しないようにしてください。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の实務経験	精神保健福祉士				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容	職場のメンタルヘルスに関して解説する。				

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
企業論演習 I～IV (Company and Business Seminar I～IV)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1. 2	前・後		河野 憲嗣 (Kenji KOUNO) E-mail kouno-kenji@oita-u.ac.jp 内線 7679
授業の概要	企業の現場で起きている事象に着目し、研究対象としての企業像への理解を深めるとともに企業の本質をする研究の指導を行います。				
具体的な到達目標					
目標1	課題設定型・対象規定的方法論を理解し、修士論文の作成に活用できる。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	問題意識、研究の方向性の確認				
2	文献調査、事例研究				
3	研究課題、研究手法の確認				
4	学会報告、レポート作成				
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブラーニング	論文や報告資料など成果物をアウトプットすることにこだわります。他学生や様々な環境の中で学ぶ機会を設けます。			その他の	授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	教科書は使用しません。必要に応じてスライドやプリントを使用します。				
参考書	日置弘一郎『経営学原理』エコノミスト社 2000年 河野憲嗣『チェック・トランケーション研究』学文社 2013年 その他、テーマに応じて適宜紹介します。				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法			割合	
	レポート			50%	
	平常点			50%	
注意事項	ゲストスピーカーを招いたり、企業等へ現地調査に赴くことがあります。				
備考	受講希望者は初回講義日前日までに必ず担当教員までメールで連絡してください。				
リンク	個人ホームページ				
	URL	<a href="https://kenjikouno.jimdo.com/">https://kenjikouno.jimdo.com/</a>			
担当教員の実務経験の有無	○				
教員の实務経験	企業経営者、全国銀行協会、人事担当				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容	ビジネスの実体と金融の側面から、企業の本質について解説する。				

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
比較経営史演習 I～IV (Comparative Business History Seminar I～IV)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1. 2	前・後		渡邊 博子 (Hiroko WATANABE) E-mail watanabe-hr@oita-u.ac.jp 内線 7702
授業の概要	本授業では、日本経済の現状分析や歴史的展開、ならびに日本経済の成長を支えている(支えてきた)産業や企業を対象に、そのイノベーション過程や発展戦略の調査研究を行います。また、世界の中での日本の位置づけを理解したうえで、他国や他地域と同対象分野の比較研究も行います。幅広い観点や独創的な視点から、各自の関心や興味の対象分野を限定し、テーマの設定、文献・情報収集、実態調査とその分析、修士論文の取りまとめ、報告・発表(プレゼンテーション)などを実施します。				
具体的な到達目標					
目標1	受講生各自の調査研究のテーマを設定し、それにそった文献・情報の収集・分析、実態・実証研究の方法とその進め方を考える。				
目標2	報告や発表(プレゼンテーション)の仕方を学ぶ。				
目標3	修士論文を作成する。				
目標4	大学院修了後の進路(進学、就職、起業など)について考える。				
目標5	キャリアデザインを考え、キャリア向上のできる力を養う。				
目標6					
授業の内容					
1	演習 I				
2	はじめに(概要及び進め方)、基礎的学習のための方法とその実践、研究計画の考案とその内容、研究方法の検討、				
3	対象分野の概要と先行研究調査、対象分野の関連文献および情報収集、取りまとめとその成果発表など。				
4	演習 II				
5	はじめに(実施内容とその進め方)、修士論文の検討、事例研究、事例研究報告、進路指導とキャリアデザイン、取りまとめと成果発表など。				
6	演習 III				
7	はじめに(実施内容とその進め方)、修士論文の検討、修士論文の作成指導、進路指導とキャリア向上、取りまとめと成果発表など。				
8	演習 IV				
9	はじめに(実施内容とその進め方)、修士論文の最終報告、進路指導とキャリア向上、修士論文のチェック、修士論文修正、これまでのまとめと成果発表など。				
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、レポート、事例研究、フィールドワーク、インターンシップ、論文作成など。			その他の	授業の工夫
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修	授業時に説明します。			
	事後学修	授業時に説明します。			
教科書	使用しませんが、必要に応じて関連資料等を配布します。				
参考書	橘川武郎・平野創・板垣暁編『日本の産業と企業－発展のダイナミズムをとらえる－』有斐閣、2014年。三菱総合研究所『日本産業読本』東洋経済新報社、2006年。関満博『現場主義の知的生産法』筑摩書房ちくま新書、2002年。小池和男『聞き取りの作法』東洋経済新報社、2000年。他 授業の中で適宜紹介します。				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法			割合	
	授業時における報告および議論の内容や取り組み姿勢			30%	
	課題対応や修士論文の達成状況			70%	
注意事項	自主的・主体的な態度で授業に参加してください。				
備考	具体的な内容や進め方などについては、受講生の要望に応じて相談しながら決めていきたいと思っています。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無		○			
教員の实務経験	シンクタンク 研究員等				
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経営管理論演習Ⅰ～Ⅳ (Business Administration Seminar I～IV)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1.2	前・後		藤原 直樹 (Naoki FUJIWARA) E-mail nfujwara@oita-u.ac.jp 内線 7675
授業の概要	演習Ⅰ・Ⅱ：本演習では、経営管理論ならびに経営経済学に関する基本的な文献を輪読していきます。学説史のアプローチにより、経営管理論に関する理論的な知識の習得をめざします。演習Ⅲ・Ⅳ：演習Ⅰ・Ⅱで習得した理論と分析手法の展開を促し、修士論文の課題に結び付く研究指導を行います。				
具体的な到達目標					
目標1	修士論文の作成・執筆をめざします。				
目標2					
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	修士論文の作成・執筆のために (1)				
2	修士論文の作成・執筆のために (2)				
3	修士論文の作成・執筆のために (3)				
4	修士論文の作成・執筆のために (4)				
5	修士論文の作成・執筆のために (5)				
6	修士論文の作成・執筆のために (6)				
7	修士論文の作成・執筆のために (7)				
8	修士論文の作成・執筆のために (8)				
9	修士論文の作成・執筆のために (9)				
10	修士論文の作成・執筆のために (10)				
11	修士論文の作成・執筆のために (11)				
12	修士論文の作成・執筆のために (12)				
13	修士論文の作成・執筆のために (13)				
14	修士論文の作成・執筆のために (14)				
15	修士論文の作成・執筆のために (15)				
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫
一人一人丁寧に指導します。					
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	毎回の報告書が必要です。(30h)			
	事後学修				
教科書	使用しません。				
参考書					
成績評価の 方法及び 評価割合	評価方法			割合	
	報告書の内容			100%	
注意事項					
備考					
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の実務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験を いかした教育内容					

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経営戦略論演習Ⅰ～Ⅳ (Management Strategies Seminar Ⅰ～Ⅳ)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1. 2	前・後		仲本 大輔 (Daisuke NAKAMOTO) E-mail daichan@oita-u.ac.jp 内線 7714
授業の概要	演習Ⅰ・Ⅱでは、修士論文作成のために必要な、経営戦略論や経営組織論を中心とする経営学関連の理論の習得を目指します。また、ケース分析も行うことにより、修士論文のテーマを絞り込んでいくことも視野に入れます。演習Ⅲ・Ⅳでは、修士論文執筆に向けた研究指導を行います。				
具体的な到達目標					
目標1	演習Ⅰ・Ⅱでは、理論の習得と、修士論文のテーマをコンクリートなものにすること、になります。				
目標2	演習Ⅲ・Ⅳでは、修士論文を執筆し、完成させることを目指します。				
目標3					
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	演習Ⅰ・Ⅱでは、基礎的な文献(専門書や論文)を複数読み進めていくことで、経営戦略論や経営組織論の基本的な理論を習得します。そのうえで随時、学習した理論をもとにケースの分析と考察も行います。さらに、修士論文のテーマ、および論文の構成を組み立てていきます。 演習Ⅲ・Ⅳでは、執筆する修士論文の原稿をもとにディスカッションを進めていきます。そしてさらに文献研究を進め、事例研究の分析と考察を深め、またディスカッションをする、というループを繰り返していくことで原稿の改善を進めます。 最終的には修士論文の完成を目指します。				
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブ ラーニング					その他の 授業の工夫
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	受講者と相談して決めます。				
参考書	適宜紹介します。				
成績評価 及び評価 割合	評価方法			平常点	割合 100%
注意事項	他の経営学系の演習と合同でゼミを行う機会を数回持つことを考えています。				
備考					
リンク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の 実務経験					
教員以外で 指導に関 わる実務 経験者の 有無					
教員以外 の指導に 関わる実 務経験者					
実務経験 をいかした 教育内容					





令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経営情報論演習 I～IV (Analysis of Corporate Information Systems Seminar I～IV)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1. 2	前・後		松岡 輝美 (Terumi MATSUOKA) E-mail matsuoaka-t@oita-u.ac.jp 内線 7668
授業の概要	ICT (情報通信技術) を活用した企業経営分野において、受講者の研究テーマに沿ってアーキテクチャ視点でビジネスモデルを分析・研究します。				
具体的な到達目標					
目標1	経営学における、実証研究の方法論を学ぶ。				
目標2	研究テーマに関連する既存の研究をサーベイする。				
目標3	研究に必要な統計分析スキルを習得する。				
目標4	学術論文の書き方を習得する。				
目標5	ツールを使用したプレゼンテーションスキルを習得する。				
目標6	社会的に意義のある提案を創造する				
授業の内容					
1	〔演習Ⅰ〕				
2	研究計画書に沿って基礎理論の理解のために土台となる論文を読み進めながら、同時にテーマ設定やアプローチ方法やデータ				
3	分析の妥当性を分析していく。				
4	〔演習Ⅱ〕				
5	リサーチクエスションの再考で研究テーマを絞り込んでいく。				
6	数量化理論Ⅰ・Ⅱ類によるデータ分析スキルを習得する。				
7	〔演習Ⅲ〕				
8	論文構成を考え、目次を作成し、文献の精読とデータ収集・分析・報告・レポート作成				
9	〔演習Ⅳ〕				
10	修士論文の中間発表				
11	中間発表での質問やアドバイスを参考に細部を確認する。				
12	修士論文を書き上げ、最終試験に備える。				
13					
14					
15					
アクティブラーニング	関連する文献を数多く読み、内容を研究ノートにまとめながら知識の定着と論理的思考力を高める。ディスカッションで批判的検討を行い、意義ある提案を導き出す。			その他の	授業の工夫
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修				
	事後学修				
教科書	研究計画書のテーマに応じて指示する				
参考書	研究計画書のテーマに応じてその都度指示する				
成績評価の方法及び評価割合	評価方法			割合	
	学位論文作成のためのテーマの設定と資料収集			10%	
	分析スキルの習得			10%	
	論文作成のためのノートづくり			10%	
	論理的な文書化スキル			5%	
	論理的な報告スキル			5%	
学位論文の作成			60%		
注意事項	文献を収集したらよく読んで研究ノートを作りましょう。				
備考	2年間は長いようでありながら、あっという間に過ぎていきます。目標を設定したら、わき道にそれず、日々安定した学習を心がけてください。基本的な分析手法を段階的に習得しつつ、修士論文作成のため計画的に学習を積み重ねていきましょう。				
リンク	URL				
担当教員の実務経験の有無					
教員の实務経験					
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無					
教員以外の指導に関わる実務経験者					
実務経験をいかした教育内容					

# 令和3年度(2021年度)シラバス

授業科目名 (科目の英文名)					専攻・コース
経営組織論演習Ⅰ～Ⅳ (Organization Theory Seminar Ⅰ～Ⅳ)					地域経営政策専攻 マネジメント (MBA) コース
必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1. 2	前・後		本谷 るり (Ruri MOTOYA) E-mail motoya@oita-u.ac.jp 内線 7707
授業の概要	演習Ⅰ・Ⅱでは、修士論文執筆のために必要な経営学や経営組織論の理論の習得を目指します。また修士論文のテーマ決定のためのディスカッションを継続的に行っていきます。演習Ⅲ・Ⅳでは、修士論文執筆にむけた研究指導を行います。				
具体的な到達目標					
目標1	研究動機を修士論文研究テーマへと絞り込み、明確にすること				
目標2	研究の遂行と修士論文の執筆準備				
目標3	修士論文の執筆				
目標4					
目標5					
目標6					
授業の内容					
1	演習Ⅰ～Ⅲ：経営組織論の基本的諸理論を身につけるために、繰り返して基礎的文献を読みこなして理解を進めます。				
2	さらに専門的文献を読み進めながら、修士論文のテーマ設定、骨子の作成、調査等の準備を行います。				
3	演習Ⅲ～Ⅳ：研究に関わる文献をレビューし、研究テーマを明確化します。				
4	研究に関わる調査等を実施し、分析と考察を進め、修士論文を執筆します。				
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
アクティブ ラーニング	修士論文にかかるプレゼンテーションとディスカッションを繰り返します。			その他の 授業の工夫	
時間外学 修の内容 と時間の 目安	準備学修	研究をすすめ、その内容についてプレゼンテーションする準備をしてください。必要な時間は進捗に応じて異なります。			
	事後学修	演習後にディスカッションする内容を復習し、不足した部分について進めましょう。必要な時間は進捗に応じて異なります。			
教科書	全回にわたって使用する教科書はありません。研究テーマと進捗に応じて必要な文献を提示します。				
参考書	随時、示します。				
成績評価 及び評価 割合 の方法	評価方法			割合	
	研究と修士論文の進捗度			100%	
注意事項					
備考					
リンク	URL				
担当教員の 実務経験の有無					
教員の 実務経験					
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無					
教員以外 の指導に 関わる実務 経験者					
実務経験を いかした教育 内容					